

そうじの力だより

VOL.199



支援事例紹介

愚直にやり続けることが会社を元々へ
成功に近道なし

岐阜県関市の鑄造業株マツバラで、「おそうじパワーアップ活動」が行われています。

弊社のお手伝いで、この活動がスタートしたのは、二〇一〇年三月つまり、十二年間続けてきたということ。オギャーと生まれた赤ん坊が小学校を卒業する歳月です。



火花と粉塵が飛び散る鑄造工場

鑄造工場は、火花と粉塵の舞う、過酷な環境です。ここで、整理・整頓・清掃の活動を続けるのがいかに大変かは、現場の社員さんたちが一番よくわかっています。

スタート当時、松原史尚社長が、全社員に向けて発した宣言文に、こうあります。

『平成二二年四月、経営の最重要課題として、全社一丸のそうじに取り組みむことを宣言する。技術、品質、安全、納期、環境、営業、全ての基本はそうじにあると心得て、未来永遠に取り組み課題として位置づける。』

毎日、いつも、こつこつと、必ず実施すること。
・こみの山、埃の山は、宝の山と心得よ。

・研いているのは職場でなく自身の心と心得よ。

・誰かがやるではなく、自分が行うことをモットーとする。

・見えない場所こそ率先して実施すること。』

振り返ってみると、確かにコツコツと続けてきました。

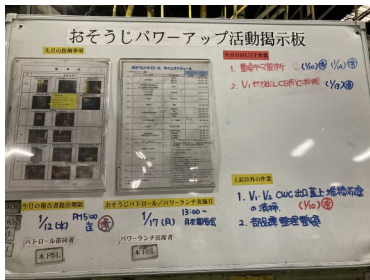
十二年間も続けていると、時にはマナー感も出てきますし、誰もが率先してやっているというわけではない、という現実もあります。

それでも、やめずに続けてきた。その分だけ成果が出ているのも、否定できない事実です。

鑄造の鑄型を作る造型係は、以前は劣等生でした。職場は汚く、改善も進みませんでした。

ところが、

が、今期に入り、雰囲気ガラッと変わってききました。活動掲示板を作り、そこに組み込むべきタスクを明記したことで、係員全員のやるべきことが明確になりました。



造型係の活動掲示板(タスクが明記)

実際、以前はこぼれた砂が山盛りになっていたフロアが、今では見えないほど

どキレイになっていました。砂の堆積がなく、ホウキで掃いた跡が彼らの努力で物語っています。



砂山のないフロア(ホウキの跡が清々しい)

また、高温でドロドロに溶けた鉄の湯を、鑄型に流し込む溶解係では、作業をするターンテーブルの周囲をキレイに維持しています。

ターンテーブルには、飛び散ったりこぼれたりした鉄の湯を安全に吸引するた



砂こぼれのないターンテーブル

め砂が敷かれています。放つと、この砂が周囲に巻き散らかされて、砂だらけになってしまうのですが、こまめに掃き掃除をすることで、清潔に保たれています。

製品の品質を検査する検査係では、以前は、作業に使う工具が、ボックスにグチャグチャに入られており、なかなか改善が進みませんでした。



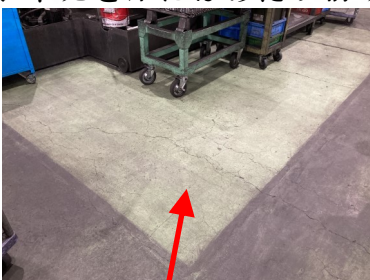
検査係の工具(上ピフォア、下アフター)

しかし今は、工具を壁掛け式にして、使いやすいようにしています。

そして、切削加工係。ここは、加工機から飛び散るミストのような切削油で、機械や床面が汚れます。

今期は、加工機をピカピカにすることを方針に掲げて取り組んでいます。

おかげで、以前は黒ずんでいた加工機の表面は、真っ白に輝き、床面も、こうして元のライトグリーンの色を取り戻しつつあります。



本来の色が戻ってきた切削加工係の床面

続けていけば、紆余曲折はあつても、必ず会社は良くなる、というお手本が、この株マツバラです。(小早)

オンラインでの研修や講演を承ります。目的や対象者に応じて、時間や内容をカスタマイズできます。まずはメールなどでお問い合わせください。

今月の読書から



町医者として、1200人以上のコロナ患者を受け入れ、3000人に対してワクチン接種した医師の証言。

《ワクチン接種の意義について》応急処置としては短期的に成功した可能性

がある。》

《ただ、長期的に見た場合の評価はまったく違います。ましてや3回目のブースター接種とか、イスラエルのように4回目を打つといった話になってくると、はっきり言って訳がわかりません。スパイクタンパクで抗体を強烈に誘導し続けて、人体の免疫系は本当に大丈夫なんでしょうか。》

《はっきり言って、何回も打つべきではないです。言葉は悪いですが、覚せい剤みたいなもので、1回打ったらやめられず、

何回も何回も打つことになるでしょう。なぜかって、打っても早晩、抗体量が下がるから。イタチごっこなんです。》

《「よそでワクチンを打って、2~3週間して調子が悪い」と訴える人も後を絶たず、大変なことになっています。(中略)倦怠感、集中力の低下、めまい、頭痛、関節痛、手足のしびれですね。(中略)ワクチン後遺症は、60歳以下の若い人に多いんです。》

《私も最初は、「高齢者には仕方がない」と思いながら打ったんです。(中略)打ち始めてから半年経って、情報が増えて、考えが変わりました。mRNAワクチンは、若者だけでなく、高齢者にも打ちません。今は高齢者にも3回目の接種をしないように呼び掛けています。》

《私はワクチン反対派でも推進派でもなくて、懐疑派というか、どちらかという都不要論者なんです。だって、当院では1200人以上ものコロナ患者さんにかかわってきたのに、この1年半、スタッフは誰一人コロナに感染しなかった。》

《私は(ワクチンを)打ったんだけど、打たなかったスタッフも結構いるんです。(中略)なのに、私だけでなく、スタッフは誰一人かからなかった》

《コロナで死ぬリスクがきわめて低い大学生に打つなんて、私の中では考えられないんです。》

《子どもは誰のために打つんですか？おじいちゃん、おばあちゃんのために打つんですか？その理由もよくわからない。にもかかわらず、頻度は少ないかもしれないけれど、一定の確率で強烈な副反応が起きる。免疫反応は多様で、百人百様だから、誰に何が起きるかわからない。だけどね、そもそもそこまでして、ワクチンを打たなきゃならない相手ですか？普通に元気な子どもは、コロナに感染しても死なないでしょ。》

《そもそも、スウェーデンがやろうとしたように、感染することは決して悪いことではないんです。(中略)微量のウィルスや微生物を浴びながら、自然に免疫を鍛える方がいいんです。》

(小早)

編集後記

似た者同士？

私は1月24日が誕生日で、先日、54歳になりました。

実はこの1月24日というのは、ウチの愛犬「カイ」君の誕生日でもあります。

柴犬のオス、満4歳のカイ君は、なかなかの気難し屋。

尻尾を振ることはまずなく、家族が帰宅しても、寄っても来ません。餌も、ドッグフードは残し、本物の肉や骨だけがつつきます。

人におもねることなく、我が道を行く。誰かに似ていると思ったら、私でした。だって、同じ誕生日ですから。(小早)



飛鳥のつばやき

飛盗次男坊！

2歳を目前に、ちゃっかり度に磨きをかけている次男。

兄弟揃って大好きな文旦を別々に出してやった時のこと。

テレビを見ている兄の隙を見計らい、スツ…スツ…と、母の目の前で自分の皿にさらっていくのでした。

この大胆さ、鮮やかな手さばき、そして全く気付かない長男(笑)。怪盗次男坊、ここにあり！ (大槻)



株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨く、
日本で唯一の研修会社

弊社は“そうじ＝環境整備”を通じ

た「企業風土改革」を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場検証を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を原則としますが、状況とご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。(全国対応)